

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	【8 陸上自衛隊美幌駐屯地】
田村主幹	<p>※別紙検討シート及びパンフレットに基づき概要説明</p>
	<p>今後規模が縮小される懸念があるので陳情要望活動をしている。 現在の体制は、元々帯広が第5師団となっていたが、平成16年に第5旅団と規模が小さくなり、それに伴い美幌駐屯地も縮小となった。隊員数は平成元年で1,450名くらいだったが、現在は760名ほどで約半分となっている。 これ以上削減しないよう、また新たな部隊を配置してもらえよう陳情活動をしている。</p>
疋田委員	<p>災害時例えば吹雪の時とかに、自衛隊はいつ動き出すのか。</p>
田村主幹	<p>よほどの時に町から知事に要請し動き出すことになる。</p>
池野本委員	<p>自衛隊の人で北見から通っている人がいるが、せっかくなので美幌に住んでもらえる土台的な環境はないのか。</p>
田村主幹	<p>住宅でいえば自衛隊官舎もあるので環境は整っていると思うが、北見から通勤している方もいることは事実である。</p>
池野本委員	<p>何か少しでも環境を整えてあげれば、美幌に家でも建てようかと思う人もいるかもしれない。本当に自衛隊が必要だと思うならばそういう整理が必要だと思うが。</p>
総務主幹	<p>そういう環境でいくと昨年隊員が南スーダンに派遣された時に残された家族の方への支援を行うために留守家族支援協定を2市8町で結んだ。このことは全国で美幌町しかない取組である。</p>
池野本委員	<p>美幌に家を構えるならば、いくらか助成しますよということとはできないのか。</p>
田村主幹	<p>自衛隊だからという理由での助成は難しい。その中でどのような支援ができるかということで、実際に行政だけではなく協力諸団体ということで、隊友会、父兄会、女性協力会、自衛隊友の会等いろいろな協力団体があるので、そういったところと協力しながら支援なども行っている。 また就職援護ということでも役場の中で嘱託職員としても働いてもらっている。</p>
加藤委員	<p>災害時の給水活動なども、出ていると思うが、自分達で勝手に動けるのではなく要請があって初めて動ける組織なのだと思う。</p>
田村主幹	<p>駐屯地があることで、防衛施設周辺整備事業があり、例えばごみ処理施設、リリー山スキー場、陸上競技場、高規格の救急車の導入等の助成も受けている。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
池野本委員	遠軽よりは大きいのか。
田村主幹	数は変わらないが、遠軽は第2師団で本部が旭川なので上部組織は大きい。
池野本委員	現状から考えてなくすべきではないとはみなさん思っていると思うが。
佐久間委員	美幌の支援活動自体は防衛省にも認められているので、これ以上更にとするのは難しいのではと考える。自衛隊は基幹産業の一部のようなものだと思うので、今迄どおり積極的にこれ以上減らないようにといった取り組みが必要ではないか。
事務局（那須）	先ほどの田村主幹の説明の中で、いろいろな協力団体の活動もしているといった話があったが、現計画の中では、自衛隊美幌駐屯部隊との連携とあり、存置活動にはなると思うが、せっかくそういった団体との連携もしているので、そういった部分を別項目として起こすかどうかを、持ち帰って検討していただければと思います。
	【9 国内外交流】
多田主査	※別紙検討シートに基づき地域間交流について概要説明
小室主幹	※別紙検討シートに基づき観光物産交流について概要説明
疋田委員	ちょっと暮らしのパンフレットは見たことがなかった
小室主幹	滞在型のPRなので外向けの内容で、ポスターについてもそうだが、今後皆さんの目にふれるようにしていきたいと思っている。
疋田委員	ちょっと暮らしの希望があるとのことだが、何をするのに5日間泊まってみたいと言っているのか。
小室主幹	多くの方が観光に近いというか、美幌を拠点としていろいろと見てみたいという希望がある。交流人口が少しでも増えていただければという思いである。
疋田委員	知り合いの人で、美幌はいいところだから春から秋くらいまで美幌に滞在し、農家の出面さんに行きながら、暮らしたいということも聞いたことがある。離農した後とか利用して、1シーズンとかそのようなことができないかと考えたことがある。
小室主幹	農家の後の住宅を買ってというところまでは考えていないが、ロングランでの滞在ができる施設の整備を今年考えている。
池野本委員	移住定住は全国の自治体のテーマだと思うが、例えば美幌に住む場合土地を上げますというようなことはあるのか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室主幹	ない。
池野本委員	今まで体験した何組の方は定住まで考えていたのか。
小室主幹	定住までは考えていないと思う。体験しながら楽しんでその中でどこかに落ち着きたいという人はいた。
池野本委員	今の時代インターネットで、ここに住めばこんないいことがありますといった全国の情報が分かるが、美幌に住むとはたして得なのか損なのかと思うが。
小室主幹	<p>何年か前の一般質問で、町長が答弁しているが、他の市町村でそのようなことをやっているのは知っているが、美幌町はそういったお金を出してまでとは考えてなく、美幌を気に入った人に住んでもらえるよう町の魅力を高めていきたいとの内容であった。お金を出して来てもらっても、魅力がなければ出て行ってしまふのかなと思っている。</p> <p>ちょっと暮らしの関係は北海道移住促進協議会の中で加盟している全部の市町村が出てくるが、見ている人はそこを見ているとのことだが、その中でも釧路が気候的に一番人気が高いとのこと。</p> <p>その釧路でも移住に至った件数はほとんど無いに等しいとのこと、やはり本州の人にしてみると、寒さと雪がネックになっているようである。</p> <p>交通アクセスでは優位なので前面に出していきたいと思っている。</p>
佐久間委員	<p>ちょっと暮らしというと観光の要素が強いと思うが、移住というと観光をしてもらって美幌の良さを知ってもらって移住ということもあるかと思うが、先ほど池野本委員が言っていた、近隣の市町村から移ってきてもらうという移住もあると思うが、少子化とか人口減少対策から考えると、美幌に住んでもらえる移住に力を入れるのも大事だと思う。</p>
小室主幹	<p>今後総合戦略が出てくるが、その中で美幌から通ってもらえる方策につなげていきたいなと思っている。ベットタウンというようなことになるかもしれないが。</p>
佐久間委員	<p>それでもいいのではないか。住民税が美幌に入るし、子供が美幌にいることになるので。</p>
小室主幹	<p>人口が増えると将来的に企業が来て雇用の場ができることも考えられる。</p>
池野本委員	<p>美幌に定住したいけどどこかあるかとの問い合わせがあった場合対応できるのか。</p>
小室主幹	<p>空き家バンクシステムは無いが、貸家業組合とつながりは持っているので、紹介はできる。</p>
池野本委員	<p>移住したい人がどこに相談をすればいいのかが、分からない。どこに行けばいいのかの窓口が無いのが駄目なところで、窓口は一本化すべき。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室主幹	移住定住についてはワンストップ窓口というところで商工観光が窓口になっているが、町民の皆さんに伝わっていないのかなと思うので、PRが不足しているのかなと思う。
佐久間委員	移住の観点で行くと今、おじいちゃんおばあちゃんのところに、孫が帰ってくるというパターンが増えているということで、将来的にはそこに目をつけるというのもいいのではないかと思う。親は都会だけど都会のいやな子供が田舎に来て働いているということなので、そこをまだつついているところは無いと思うので、打ち出していけばどうかという気はしている。
小室主幹	参考にさせていただきたい。
池野本委員	せっかくケンブリッジと交換留学をやっているが、最近流れが悪くなってきたような話をされていたが、過去に何人か行っており、いろんな思いで行っている人がいると思うが、どういう感想を持って帰ってきているのか。
多田主査	やはり目的を持って行っている人が多いが、語学を高めたい人とか、昨年の方は、農家を継ぐためにアメリカへ留学するためのステップとして、ニュージーランドへ行ってみたい人という人もいた。
池野本委員	自分も過去に「未来への翼」という事業でニュージーランドに行かせてもらったが、ニュージーランドは福祉も進んでいる。 高校生の短期留学だけではなく、福祉の観点で交流もできないかと思う。日本の福祉はすべてお手伝いをするみたいなどころがあるが、向こうは自立支援型で、その辺が異なっているので情報交流なども含めて農業もいいがビジネス的な交流もありなのではないかと思う。
多田主査	私も昨年訪問団の随行で行ったが、自転車の競技施設を建てる時、企業がスポンサーになり、ただお金だけを出すのではなく、例えば塗装業の人なら塗装をするなどといった方法も聞いた。参考になる話があるのでいろいろな職種の人に聞いてもらえるといいと思った。
佐久間委員	自分は高校生より小さいときに自分の子どもに行かせたいと思う。子どもと一緒に親子で旅行がてらにホームステイすることで、その後の交流などもできるだろうし、おとな同士だとなかなか会話も進まないが、子供がいるとそれだけで、場が和んだりする。町が全部するのではなく、窓口は町となってつなぎ役だけを行い、あくまでも自分たちの責任で行くというように、そういうのだったら、自分も行ってみたいと思う。
池野本委員	ニュージーランドはホームステイの受けてがいっぱいいるが、美幌は受け手があまりない。そこも問題である。
多田主査	高校生の留学もそれぞれの行った先で受入れしてほしいと思うが、ニュージーランドでは受け入れられるが、日本では難しい状況でそこが問題である。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
事務局（那須）	<p>移住定住については後日、人口減少対策という項目で、全部会共通テーマとして議論を一度行いたいと考えているので、それまでに各自考えていてほしい。</p>
佐久間委員	<p>観光物産交流の件だが、自分はそんなに推進しなくてもよいのではと思っている。今はインターネット等でなんでも取り寄せられるので、こちらからのPRは必要だと思うが、相互交流はいらぬのでは。例えば美幌の特産品と、美幌には海が無いので海の町とのコラボで特産品を作り売るとかであればいいが、わざわざ税金をかけて取り組まなくてもいいかと思う。</p>
小室主幹	<p>吉松町の時代はそんなにインターネットも普及していなかったもので、それはそれでよかったと思う。 一方で観光物産交流によって交流人口が増えるということもあるので、どうつなげるか方向性を探っていきたい。</p>
多田主査	<p>【10 人権、男女共同参画】</p> <p>※別紙検討シートに基づき概要説明。議論は次回へ持越し。</p>